

研究内容の説明文

研究課題名	A型肝炎およびE型肝炎の血清疫学調査
研究期間	平成28年7月～30年3月
研究機関名	国立感染症研究所ウイルス第二部
研究責任者職氏名	主任研究官 清原知子

研究の説明

1 研究の目的・意義

A型肝炎とE型肝炎はウイルス感染による急性肝炎です。原因ウイルスはそれぞれA型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルスです。どちらもウイルスに汚染された食品や水を口にすることで感染し、2～8週間の潜伏期間の後、肝炎を発症します。急性期を過ぎると順調に回復し、慢性化することはありませんが、黄疸、倦怠感等の症状は重く、通常の生活に戻るまで3ヶ月ほどかかる場合もあります。また、感染年齢の上昇と共に重症例、死亡例が増加する傾向にあります。

どちらの肝炎も感染すると血液中にウイルス抗体が作られます。この抗体はA型肝炎あるいはE型肝炎の既往歴を示します。また、この抗体ができるとウイルスに抵抗性を持ち、二度と感染することはありません。一方、感染する機会が無く、抗体を持っていない人はウイルスに抵抗性はありません。抗体を持っていない人たちのことを「感受性者」といいます。本研究は日本各地から提供された献血血液中のA型肝炎およびE型肝炎抗体を調べ、それぞれの感受性者が多い地域や年齢層を知ることを目的としています。地域や年齢の偏りからA型肝炎およびE型肝炎の流行状況と効果的な予防方法を提案します。

2 方法《献血血液の使用法含む》

日本全国から血液を提供していただき、地域、年齢、性別ごとにA型肝炎およびE型肝炎抗体の有無を調べます。

3 予測される研究の成果等

最新のA型肝炎およびE型肝炎の流行状況、それぞれの感受性者の分布を明らかにします。潜伏期間が長く原因対策が難しいA型肝炎とE型肝炎は、衛生管理やワクチンによる予防が大切です。本研究から得られるデータは予防対策を立てる基本となります。

4 血液の廃棄と保管

使用するまで冷凍保管し、使用後は高圧滅菌後、医療廃棄物として処分します。

受付番号

28J0006

本研究に関する問い合わせ先

所属	国立感染症研究所ウイルス第二部
担当者	清原 知子
電話	042-561-0771
Mail	kiyohara@nih.go.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。

0000-00